

私が継続している質問の、「大阪・関西万博と IR と本市南部臨海地域の活性化について」と、「旧尼崎市産業郷土会館と大物公園」についての 2 問を質問します。

会派の安浪議員と私が一般質問で訴え続けてきたことが、2025 年大阪・関西万博開催に向けて、兵庫県が 2021 年度に尼崎港に建設資材等を水上輸送で運ぶ為の岸壁を整備する方針を固めたこと、11 月 1 日の新聞、ニュース等の報道が、ありました。

万博会場の夢洲は大阪湾に浮かぶ人工島で、島へ渡る陸路は「夢舞大橋」と「夢咲トンネル」しかなく、会場の建設工事が本格化すれば、資材や作業員を運ぶトラックの往来が増え、慢性的な渋滞が発生する可能性があります。

夢洲と尼崎港はたった 3 キロ、舞洲と尼崎港は 1.1 キロの距離にあるので、海上輸送はリスク回避に繋がり、海路は作業員の通勤にも使える利点があります。尼崎港の整備は、夢洲における万博施設の整備後も人流・物流の海上輸送ルートとして役立ち、また、もし夢洲に IR の誘致が決まれば、新たな雇用創出や地域経済の活性化など波及し、更なる相乗効果が生まれ、本市にとっても大きなチャンスです。

5 号湾岸線で 5 分、尼崎に車で来て船で行く尼崎をストックヤードにして、パークアンドライド・交通アクセスの強化が不可欠です。

関西広域連合 11 月臨時会では、大阪府議会上島一彦議員が、尼崎市との連携の質疑を連合長の井戸知事にされています。

連合の構成府県市や域内市町村で、関連イベントの実施等万博開催との相乗効果を図れば、本市経済の活性化にも繋がります。

「2025 年大阪・関西万博」の成功とその効果の関西全体への波及を実現するため、広域連合としても、積極的に取り組む必要があることから、本年 10 月 1 日付けで、吉村洋文大阪府知事を「2025 年大阪・関西万博担当委員」に、松井一郎大阪市長及び西脇隆俊京都府知事を、同副担当委員として井戸連合長は設置されました。

観光周遊・産業振興等の万博と関連した施策展開に連合の構成府県市が取り組み、2800 万人の来場が見込まれている為、本市への誘客に繋げる絶好のチャンスです。

尼崎港の公共岸壁も整備については、今年度に調査設計に着手し、2021 年度末の完成を目指して事業を推進しています。整備後における万博会場への海上アクセス手段としての活用については、日本国際博覧会協会や大阪府・市とも意見交換しながら、検討を進めてまいりたいとも井戸県知事は答弁されています。

本市中心部より南部臨海部の方が大阪市、特に南港との立地的見地から両市より優良な住宅地、商業地として優位にあります。先日、兵庫県、国土交通省、本市と 5 カ所に「尼崎港および尼崎市南部臨海地域の活性化に関わるお願い」の要望書を提出されている 4 団体の中の尼崎商工会議所と尼崎西宮港運協会の方と意見交換をしました。港づくりは町づくりだと思っている。と稲村市長にお伝えすると稲村市長も良い話だと仰られたと聞きましたが、県が前向きなのに対し、本市が前向きではないように感じられます。

質問①-1 :

これまでも言い続けておりますが、万博が開催される夢洲と本市は距離にして、わずかの好立地です。市長は、海上アクセスを活用した南部臨海地域活性化のチャンスを掴みに、行かれていない様に感じます。

前回9月の一般質問でも、旧神戸製鋼所棧橋を利用して、観光客を万博会場の夢洲地区へ海上輸送することについて質問をしました。答弁では、「県に働きかけを行って参りたい。」と仰られましたが、その後の進捗状況を教えて下さい。

質問②-1 : 2点目に今回取り上げますのは、市民の方から強く要望されている、「旧尼崎市産業郷土会館と大物公園」について質問を致します。

阪神電鉄「大物」駅から徒歩5分と好立地の場所にあった「産業郷土会館」は、突如、社会福祉協議会への移管の話が持ち上がり、平成15年9月と12月議会で審議されています。

パブリックコメントでも継続の声が多く、議会での議論でも、移管についての肯定的な意見はあまり聞かれず、存続して活動内容の充実をすべきとの意見が多く提案されていました。

平成16年に現在の尼崎市社協会館（以下、社協会館と呼びます）に用途変更されましたが、施工年度が昭和45年、約50年の建物で、施設の老朽化もあり、令和3年度に旧尼崎口腔衛生センターへ設備工事後、解体されると聞いています。

公共施設マネジメント計画の取組において、建物の解体設計予算は来年度に予算にあげられるとの事ですが、解体後の跡地活用等、計画は未定です。

本市は日本の高度経済成長期に全国から労働者が集い、地方と尼崎とを結ぶ要として、産業郷土会館は各県人会の集会所が欲しいとの要請で、昭和45年に大物公園に隣接して建設されました。

鹿児島県・奄美出身者が多く居住しておられ、各郷土出身者の交流の場や活動拠点が必要と、その当時の北和子議員が平成10年6月定例会で質問され、当時の西村市民局長が、尼崎市立産業郷土会館の在り方について、「郷土愛の高揚や芸術家の育成を通して、より一層多くの人が集い、交流により、まちに賑わいが生まれ、快適に働く環境が醸成されると考えています。」と答弁されています。

このように、多文化交流の場や文化振興の拠点として、必要とされているのではないのでしょうか。このような素晴らしい理念を持った「尼崎市立産業郷土会館」の名前はもうありませんが、ふるさと交流会館としての機能を持つ、後継施設の建設について、どのように考えておられますか。

以上で1問目の質問を終わります。2問目からは一問一答にて行います。

(一問一答)

質問①-2 : 資料1をご覧ください。平成6年9月に天然ガス化により、大阪ガス旧尼崎工場の巨大な円筒形のガスホルダーは、国道2号線の一本北側にある生活道路に面して、阪神尼崎駅から北に250mの場所にあり、取り壊されました。

当時から周辺には現在とあまり変わりなく商業ビルや住宅が共存していました。

生活道路一本隔てて、用途区画は変更できる実例です。

当局が南部臨海再開発について、阪神線以南については古くから工業専用区域に指定している為、住宅誘導はしませんと言いつつおられますが、南部臨海再開発は、本市並びに市民受益の観点から大変重要な事項ですから、行政のみで判断するのではなく、市民に広く意見を募って本市の将来に有意義なものは再検討してみるのも重要と考えますが、如何お考えでしょうか。

質問①- : 3

南部臨海地域の活用について、今回も提案させていただきます。

都市計画で定められた容積率のうち、未使用部分を他の土地に移転する権利、「空中権」の移転制度があります。

2000年の法改正によって容積率の売買が可能となり、JR東日本の東京駅丸の内駅舎は、空中権を利用したことで話題になった建物です。

この制度を生かして東京駅周辺は、「特例容積率適用区域」に認定された丸の内駅舎で余った容積率を三菱地所が開発した丸ビルや東京ビルへ売却、丸の内駅舎の建替えの原資に充てられました。余った容積率は、JR東日本が東京駅の反対側・八重洲口で開発した高層ビルのグラントウキョウノースタワー、サウスタワーにも移転され、この2つのビルは、JR東日本の投資分だけで1,290億円、共同事業者分も含めた総投資額は1,400億円をかけ、それぞれ43階、42階の高層ビルが誕生、近隣に建築計画があった新丸の内ビルディングは、容積率では30階建てまでしか建てられませんでした、38階建てに出来ました。

東京駅容積率売却と空中権転売を例に南部臨海の再開発が可能ではないでしょうか。

企業にメリットがあると判断すれば、1ヘーベあたり3,900リューベの容積で高い建物が建てられない低層階に物流拠点や工場、その上にマンション住居の建設は可能なはずで。

企業工場の上に公開緑地を中央に取り、その両端に2棟のマンションを建設することは可能です。万が一、県が出しているレベル2津波水位4メートルの津波が来たとしてもマンション部分に被害が被るリスクは低いと考えられます。

住まいを構えるとなるとインフラ整備に莫大な資金が必要ですが、下水や電気への整備は民間が行うはずで。

ここで、心配な点があります。工場、倉庫の音の問題です。

オフィスで大きな音に対応出来るサウンドマスキングシステムは、空調音のような背景音をわざと部屋に流すことで、隣室からの音漏れや遠くからの小さな音を聞こえなくし、オフィスのスピーチプライバシー改善、オフィス内のセキュリティ向上や、雑音による生産性の阻害を防ぐことができ、出力を大きくすれば、ほとんどの雑音に対応できると思います。

製造業は生産コストの収支コストが合わなくなれば撤退、移転します。

国内主要企業の多くは30～40年前に国内生産から中国へ生産拠点を移し、今やその中国からベトナム、インドネシアをはじめ東南アジア各国へ移転しています。

現在、日本も人件費は更に高くなり、海外へ又、移転する可能性があります。

来年には5Gの時代、今すでに雇用面接もAIが評価している企業もあり、今後、量産は機械が行うことになるでしょう。

一方で最近、大手日本企業が工場を国内回帰させているとも聞きました。新興国の所得の上昇により、手が届かなかった高価格の Made In Japan の商品を求める消費者が増えている、生産拠点が消費市場に変わってきたこと、賃金水準の低さから海外に生産拠点を移してきたが、国内で生産を行い、コスト削減を重ねた方が有利と考えられる部分が挙げられています。万博誘致で大阪の土地が高騰し、市場が活性し、工場地を売却し、工業地帯へ移転していく需要があります。

本市は、南部臨海地域には住居は作らない方向なら今後更に埋立地を作っていくのか、燃料基地や大型船の停泊料が収入となるようにハブ港としていくのか、専門的な工業地帯なのかどちらを目指しているのか、今後、南部臨海地域の町づくりをどの様に考えられているのか、お聞かせ下さい。

質問②-2 :

1 問目に引き続き、「旧尼崎市産業郷土会館と大物公園」について、お伺いします。配布資料をご覧ください。昭和 45 年に大物公園の再整備を行った時に、全国県人会の願いもあって、産業郷土会館前の公園内に、日本列島をかたどった植樹帯を作り、各県人会の要望する樹木を植樹して日本列島を演出しました。グーグルの空中写真で確認出来ます。昭和 46 年 3 月に築造工事が完成した、郷土の思い出がある公園です。尼崎市が出郷者を大切に思い、尼崎市各県人会連合会を設立。産業郷土会館としての建設でした。

ただ、残念なことに、案内パネルは配布資料のようにボロボロ、どの木が何県なのかという表示もなく、これだけ素晴らしい公園なので有効活用ができるのではないかと思います、どのように思われますか。

質問②-3 :

兵庫県出身の力士・貴景勝は、尼崎市にある土俵のサンシビックで稽古をしていたと、紹介されていた記事を見ました。春場所を前に頑張れ会を本市で開催されています。また、2020 年の東京オリンピックマラソン代表に選ばれた前田穂南選手、ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門で優勝された高木日向子さんのお二人は共に尼崎市、園田地区の方です。

このように尼崎市ゆかりのスポーツ・文化の分野で活躍されている方も多いわけですから、例えば子ども相撲と連携させて尼崎にふさわしい土俵を尼崎の森中央緑地に作ることに、南部臨海地域活性化を図られる考えはないのでしょうか。

令和の時代となり、「万葉集」を注釈した僧侶で国学者の契沖の誕生の比定地の碑が、尼崎城南側の中央図書館の脇にあります。

本市に縁ある契沖の契沖音頭、契沖唱歌もあり、踊りの振り付けも作られ、愛されています。3 月に阪神尼崎駅前広場で開催された徳之島祭りでは、2 日間の開催で来場者は約 2 万人も集まり、同日に同窓会も行われて、市内に宿泊されています。

万博と併せて、契沖縁ある尼崎城、大物公園、南部臨海地域と PR してクローズアップされ、周遊できる観光作りを考えていただきたいと要望して、私の一般質問を終了します。